

明治八年
大坂
錦山
新聞
第七号

武藏の国高麗郡大河原村
大工和吉の女房の諸事
邪見ある氣性よして
隣所の人へ名をよはせ。アウヤ
鬼婆々と評判と。鳥けりのにも

ねとらう。未でへ賣らんたくにて。他人の子貫と食物も
ひつめて賣る氣強さよ。居付くものさかい中よ。漸く明て
十三子ある小娘へ両親も。家もあけ給へ去ぬ所の。泣き泣
つ辛抱も。空腹いこのたうひて。買物子行と其錢と。三夏
さけ買食も。子供心の不兼用と。女房おれとさしり也。
買物先で問合ハ全く三言たぬ也。怒たてて散々よ。
お擲する其上よ。火箸と焼て顔めて。裾とま

尻めて。聲と出共猶責る。娘ハ命も危ふらば忽ち
あは是警視所へ。和吉夫婦ハ引のきとぞ

芳洲子
石和板



60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90

